

1 ヤクモソウ

2 生薬の性状の項を次のように改める.

3 生薬の性状 本品は茎、葉及び花からなり、通例、横切したも
4 のである。茎は方柱形で、径0.2～3 cm、黄緑色～緑褐色を
5 呈し、白色の短毛を密生する。髓は白色で切面中央部の多く
6 を占める。質は軽い。葉は対生し、有柄で3全裂～3深裂し、
7 裂片は羽状に裂け、終裂片は線状ひ針形で先端は鋭形、又は
8 鋭尖形、向軸面は淡緑色を呈し、背軸面は白色の短毛を密生
9 し、灰緑色を呈する。花は輪生し、がくは筒状で上端は針状
10 に5裂し、淡緑色～淡緑褐色、花冠は唇形で淡赤紫色～淡褐
11 色を呈する。

12 本品は僅かににおいがあり、味は僅かに苦く、収れん性で
13 ある。

14 本品の茎の横切片を鏡検〈5.01〉するとき、四稜を認め、
15 稜部では厚角組織及び木部繊維の発達が著しい。*Leonurus*
16 *sibiricus*に由来するものでは稜の一部がこぶ状に突出する。

17 表皮には、1～3細胞からなる非腺毛、頭部が1～4細胞か
18 らなる腺毛及び8細胞からなる腺りんが認められる。皮層の
19 柔細胞は数細胞層からなる。維管束は並立維管束で、茎の辺
20 縁に沿ってほぼ環状に配列する。師部の外側には師部繊維を
21 認める。皮層及び髓の柔細胞中にシュウ酸カルシウムの針晶
22 又は板状晶が認められる。

23

24

25